

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(地域づくり活動推進員)
にしちみちひろ
西地 道弘

㊤ 12月から「地域づくり活動推進員」として着任した西地さん。協力隊を志望した理由を教えてください。

㊤ 私は黒潮町出身で、高校卒業後は看護の仕事をしてながら大阪で10年、広島でも20年ほど暮らしていました。いつか黒潮町に帰ろうと考えていたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で気軽に地元へ帰ることができなくなったこともあり、母の近くにいたいとリターンを決意しました。そして、仕事を探している際に協力隊の募集をしていることを知りました。私は地域に出て活動する業務に興味があったので、協力隊として働くことで地域のことを知ることができるのではないかと感じ応募しました。

㊤ 現在は社会福祉協議会で仕事をしているということですが、どんな仕事をしていますか？

㊤ 町内のあったかふれあいセンターの訪問や、個人のお宅訪問に同行したりしています。町の皆さんを福祉の面からサポートしていくため、まずは地域のことを知る必要があるということで、いろいろな場所へ行かせていただいています。その地域に住んでいる方々から地域独自のルールや生活など多くのことを教わって、毎日勉強になることばかりです。

㊤ 黒潮町に帰って来て、どんなことを感じましたか？

㊤ バイパスが通っていたり、津波避難タワーが建っていたりと実家に帰る度に変化に驚いていました。町に帰ってきて、働く環境も変わってすべてが新しくなったので少し不安も感じましたね。しかし、昔の同級生や知人、役場の方や社会福祉協議会の方が優しく声をかけてくれるので、とても助かっています。



あったかふれあいセンターの利用者さんと話す西地さん

協力隊から一言！

黒潮町のいろいろなことを町の皆さんに教えてもらいたいと思います。これからよろしく願います。

Kramer's Corner



クレマのコーナー

今月のテーマ アメリカの年越しのしかた

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。年越しはどうやって過ごしましたか。実家に帰りましたか。お節料理や年越しそばを食べましたか。お寺に行って鐘を鳴らしましたか。日本はさまざまなおもしろい習慣があり、ここで年越しするのはとても楽しいと思います。でも、アメリカの過ごし方は全然違うので、今回のクレマのコーナーでアメリカの年越しの過ごし方をちょっと紹介したいと思います。

アメリカでは、日本みたいな意味深い習慣がそんなに多くないが、ほとんどの人は12月31日の夜にパーティーをし、親戚や友達と一緒に食事やカードゲームをしながら、ニューヨークのタイムズスクエアで行う新年カウントダウンの生放送をテレビで見ます。新年の10秒前になったら、みんなが口に出してカウントダウンを始めます。ゼロになったら、「ハッピーニューイヤー」と叫び、シャンパンの乾杯で新年を迎えます。大きい都市にいる人は、年越しの瞬間に始まる花火の連発も楽しめます。そして、恋人がいたら、新年の初キスをすることもあります。

それから、僕の家族の場合、必ず食べるものがあります。それはブラック・アイド・ピースという豆です。黒い目(英語でブラック・アイ)みたいな点がついている小さい豆であり、お正月に食べるのはアメリカの南部の昔からの習慣です。食べると新しい年に幸運が訪れると言われており、祖母が毎年この豆の料理を作っています。きっと今年も食べて幸運を願ったでしょう。



クレマの家族の年越しパーティー



ブラック・アイド・ピースのシチュー

今月の使える！英語

Happy New Year!
明けましておめでとう！

